

Y10c 天文・宇宙に関連したリベラルアーツ科目受講生の科学リテラシー習熟度経年変化

山崎大 (茨城大学)

近年のIT技術の発展により、人工知能(AI)の進化は急である。AIは人類に様々な恩恵をもたらしているが、一方で、AIの活用によって、誰もが高度な科学を装った情報を作り出すことが可能になった。悪意のある個人や集団がAIを利用して偽の科学情報を作り出し、人々を欺き、様々な被害が表面化してきている。このような偽の科学情報を見極めるには、科学リテラシーが不可欠である。本研究では、このような社会的背景における科学・情報リテラシー教育の成熟度を測るため、教養科目における科学リテラシー教育に関する授業調査のデータを年度ごとに集計し、科学リテラシー習熟度の経年変化を分析した。その結果、科学リテラシー習熟度は低下傾向にあることが明らかになり、「根拠のない情報は盲目的に信じない」、あるいは「根拠のある情報は盲目的に信じてしまう」といった、情報の真偽を検証しない傾向が年々強まっていることが明らかになった。また、対象授業受講前の学生の科学リテラシー習熟度は低下傾向にあり、授業受講後は、成績下位層において根拠のない情報を確認する行動をとる学生の割合が年々悪化している一方で、他の根拠に基づく情報源を確認する学生の割合は改善傾向にあることがわかった。以上の分析結果に基づき、教養科目における科学リテラシー教育方法の今後の改善方法についても考察する。